

座り込みも辞せず

水俣病患者
者互助会

きょう県庁に陳情

水俣病患者家庭互助会では「調停

とどまらせた。

委では不知火海漁民に優先してわれわれのことをとりあげてほしい」と全会員七十人が一日県庁を訪れ陳情する。

同互助会では陳情に先立ち三十日午前九時から西田工場長に団交を申し入れるいつばう代表八人が中

話し合いはこのあと三時すぎから互助会代表と西田工場長の間で行なわれたが、工場長は同情はするが一人当たり三百万円の被害補償要求を認めるわけにはいかないと拒否、交渉はものわかれとなった。

結局五時すぎから市長室で奇病対

策委と互助会の約三千人が会場で対策を練った結果、互助会全員と藤川同対策委員長ら六人、淵上市会議長、石原助役らが一日朝六時二十七分水俣駅発止りディーゼルカーで県庁を訪れ陳情することになったが、会員たちは知事のお答えしだいでは座り込みも辞さないといっている。

村市長に会い、葦北郡は三人の水俣病患者のため全村あげて対策を講じているのに水俣市は冷たんそのものだ」と市議会奇病対策委を突き、こんどの調停にはわれわれのことがとりあげられるようはかってほしいと訴えた。これに対し市長は市だけの問題ではないが解決に努力すると語った。

午後一時すぎ市立病院に入院中の水俣病患者も工場長との団交に加わると騒いだため大橋院長らが説得に当たりようやく思い